

## 主な検討課題等の検討状況について

### 1 第1回医師国家試験改善検討部会での議論

#### 1. 医師国家試験の出題数について

##### (考え方)

- まずは、各医学部・医科大学における臨床実習開始前の共用試験の実施状況について評価してはどうか。
- また、共用試験の標準化については、共用試験の出題範囲、共用試験の実施方法（受験回数、評価方法）、全医学部での実施可能性等についても検討してはどうか。

- ・ 国家試験では、共用試験と共有できない一般問題は残し、臨床実地問題を中心としながら問題数は減らすべきではないか。
- ・ 共用試験 CBT の IRT は直近のデータで分析した数字とすべきではないか。
- ・ 共用試験 CBT の IRT43 は学生のどの到達レベルなのか示すべきではないか。
- ・ 国家試験と共用試験は問う知識の深さが異なるので、連携していくことが必要ではないか。
- ・ 共用試験が統一的な基準で実施され、その検証を前提とすれば国家試験の出題数の減少に結びつくのではないか。
- ・ 重要な問題や公衆衛生等の範囲については国家試験で引き続き出題すべきではないか。
- ・ ある程度の問題数を担保しないと出題範囲が限定されることで当たり外れが大きくなり、逆に学生の負担が大きくなるのではないか。
- ・ 試験問題の数が多いからといって優秀な医師となるとは限らず、試験問題の内容が重要ではないか。
- ・ 問題数を変更するには、試験としての信頼性が重要であり、医学のような膨大な範囲では一定数は必要ではないか。

※第2回改善検討部会において引き続き議論予定。

## 2. OSCE について

### (考え方)

- 諸外国での効果や課題について情報収集し、医学部・医科大学における卒前 OSCE の実施状況も踏まえて検討してはどうか。

- ・ OSCE はこれまで長期間検討されているので、具体的な実施に向けて検討すべきではないか。
- ・ OSCE を国家試験として実施するにはステーションや模擬患者の確保など課題が大きいのではないか。

※第 2 回改善検討部会において議論予定。

## 3. 医師国家試験受験資格認定について

### (論点)

- 外国の医学校も多様化しており、医学教育の内容を確認することが困難な場合がある。
- 近年、我が国の医師免許取得を目的として、我が国の大学医学部・医科大学ではなく外国の医学校に進学する者が見受けられる。

### (考え方)

- これらの状況を踏まえ、第 3 号の受験資格認定の在り方についても検討してはどうか。

※第 2 回改善検討部会において議論予定。

## 4. その他の課題について

- 出題内容について
- 合格基準について
- 受験回数制限について
- 試験問題の蓄積（プール制）について
- コンピュータ製の導入について
- 年間の試験回数について 等

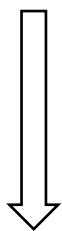
- ・ 国家試験は共用試験と連携してコンピュータ方式を用いるべきではないか。

## 2 今後のスケジュール

### 第1回（平成26年6月）

（主な論点）

- 検討の方向性について
- 卒前教育における共用試験の標準化を踏まえた医師国家試験の出題数について

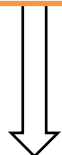


- ※ 全国医学部長病院長会議及び共用試験実施評価機構において、全医学部で共用試験の方針の最終調整を実施
- ※ その他、諸外国の事例等の情報収集

### 第2回（平成26年11月）（最終調整の結果を報告）

（主な論点）

- 共用試験の標準化の方針を評価
- 当該評価を踏まえて、医師国家試験の出題数等への反映の可能性及び反映する時期の検討
- OSCE、医師国家試験受験資格認定の在り方など、その他の課題を検討



- ※ ワーキンググループ（WG）<sup>注</sup>において、出題数、出題範囲等について具体的に検討。

注 WGは医師国家試験の詳細に触れることから非公開で行う。

### 第3回（平成27年前半までに）

（主な論点）

- WGでの検討結果を踏まえて、医師国家試験出題基準の見直し方針等として報告書を取りまとめ

※ 以降は、医師国家試験出題基準改定部会において医師国家試験出題基準の改定を行う。